

研究・調査報告書

報告書番号	担当
77	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Epidemiology of major depression with atypical features: results from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC).</p> <p>アルコール及びアルコールに関連した病気の全国疫学調査 (NESARC) の結果より : 非典型的な症状を持つ大うつ病の疫学</p>	
執筆者	
Blanco C, Vesga-López O, Stewart JW, Liu SM, Grant BF, Hasin DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychiatry. 2012 Feb;73(2):224-32.	
キーワード	
生涯の大うつ病エピソード、非典型的な症状、精神医学的疾患	
要 旨	
<p>目的： 非典型的な症状を有する者、もしくは非典型的な症状を有さない者で、生涯の大うつ病エピソードに関して、その有病率、関連した疾患、合併疾患、治療法の探索について調査した。</p> <p>方法： 2001年から2002年の「アルコール及びアルコールに関連した病気の全国疫学調査」のデータを使用した。この調査は米国人の代表サンプルの大規模断面調査である (N=43093)。この調査では「飲酒による障害及び飲酒に関連する身体障害のインタビュー：DSM-IVバージョン(AUDADIS-IV)」を使用し、精神障害について調査している。比較対照群は一生涯のDSM-IV の大うつ病エピソード基準を満たした個人の内、過眠症あるいは過食症の存在の有無に基づいて定義した。</p> <p>結果： 大うつ病エピソード中に非典型的な症状が存在すると、非典型的な症状を有しない大うつ病エピソードに比べて、一生涯にわたる精神医学的疾患(アルコール乱用、薬物依存、気分変調症、社会不安障害、特定の物に対する恐怖症、すべてのタイプ的人格障害)併発の割合が大きかった (すべてのP値<0.05)。ただし反社会的人格障害はこれに含まれなかった。非典型的な症状を有しない大うつ病エピソード群と比較すると、非典型的な症状が存在する大うつ病エピソードは、女性で、発症年齢がより若く、大うつ病エピソードの回数がより多く、重症度や障害性がより大きなエピソードがあり、うつ病の家族歴がより多く、双極I型障害や自殺企図の率がより高く、治療法をより探索することと関連していた (すべてのP値<0.05)。</p> <p>結論： 我々のデータにより、この抑うつ指定子の臨床的意義と妥当性について、さらなる証拠を提供できた。大うつ病エピソード中の2つの真逆の成長力のある徴候の存在に基づけば、非定型うつ病で一般的に引用される症状のほとんどは、我々の研究で確認された。非典型的な症状を有する大うつ病エピソードは、以前に報告されているよりもよりありふれており、より重篤でより日常生活を損なうものである可能性がある。</p>	